

■ 肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

さまざまな読書のニーズに応え、 つぎの可能性につなげる

東京都立八王子東特別支援学校
須田 暢子

はじめに

本校は、小学部1年生から高等部3年生までの子どもたちが在籍する肢体不自由特別支援学校です。通学籍の子どもたちのほかに、教員が家庭や病院を訪問し、指導を行う訪問籍の子どもたちが在籍しています。教育課程は自立活動を主とする教育課程、知的障害を併せ有する教育課程、準ずる教育課程の3種類あり、自立活動を主とする教育課程の子どもたちが多く在籍する学校です。医療的ケアのある子どもたちも在籍しています。

2012年度より、わいわい文庫利用研究校となり、マルチメディアDAISY図書は、貸与されたタブレット端末（iPad 1台、iPod10台）および校内のタブレット端末（iPad 9台）に導入して活用しています。

本校の読書活動

本校の読書活動は、学校経営計画に取り組み目標として設定し、全校で多彩な読書活動を行ったり、地域の図書館と連携を図って読書・言語活動の充

実を図ったりしています。毎年6月・11月の読書月間には学部ごとに読書冊数を競い、読書月間以外の時期にも子どもたちによる読み聞かせの会を行い、盛んに読書に関する活動を行っています。今年度は新しい試みとして、自分が読んだおすすめの本のPOPを作り、ビブリオバトルを行って全校で投票を行う活動に取り組みました。

読書環境として、学校図書館はスクールバス玄関を入れてすぐのホール隣にあり、子どもたちがよく通る位置に配置され、書棚の高さや展示の仕方も、車いすの子どもたちが利用しやすいように工夫されています。

年度初めに学校図書館において、図書館利用の際の決まりや蔵書の紹介をオリエンテーションで子どもたちに伝えています。

今年度は感染症拡大防止のため、学校図書館に集まってオリエンテーションを行うことはしませんでした。代わりにオリエンテーションで話す内容をDVDにまとめ、各教室で子どもたちに周知できるようにしました。その中

で、それぞれの困難さに合わせた読書のあり方として、マルチメディアDAISY図書の紹介も行っています。また、先に述べた読書月間には、学部ごとに読んだ冊数をシールを貼って競い、マルチメディアDAISY図書を読んだ時には専用のシールを貼り、マルチメディアDAISY図書の普及を促進しています。

このように全校的に読書活動の推進に取り組む中で、マルチメディアDAISY図書を日々どのように活用していくのか、それぞれの子どもたちのニーズに合わせた活用方法を、以下にご紹介いたします。

マルチメディアDAISY図書の活用事例

(1) 授業の予習・復習として

小学部3年さん

小学部3年Aさんは、常時医療的ケアを必要とし、自立活動を主とする教育課程に学ぶ子どもです。Aさんは排痰のために吸入が必要となる医療的なケアを受けている子どもで、午前中に10分程度ネブライザー（喀痰のための水分吸入）を行っています。

これまでは、Aさんの好きな玩具で遊びながらネブライザーを行っていましたが、徐々に絵本にも興味をもってもらいたいと思い、絵本を読みながらネブライザーを行いました。Aさんは絵本を手に取り興味を示してくれたも

の、教員がネブライザーを操作しながら絵本を開いて読み聞かせするのは困難でした。

そこで、マルチメディアDAISY図書を試してみることにしました。マルチメディアDAISY図書は自動で文章を読み上げ、ページが変わっていくので操作の手間がありません。教員はネブライザーの操作に集中できるとともに、子どもは絵本を楽しむことができました。

題材は以前授業で行った『はらぺこあおむし』を読んでいます。絵本自体への興味・関心がそれほど高くない子どもにとって、授業で触れたお話は接しやすく、視線を向けて興味をもっていました。また、Aさんは授業において新しい活動やお話に慣れるまで少し時間がかかります。

そこで、今度授業の中で『おおきなかぶ』を扱うので、予習としマルチメディアDAISY図書で触れ、活動に取り組みやすくなるよう実践中です。今まで読んだ本、これから扱う本をマルチメディアDAISY図書で読むことによって、本の世界へ興味をもつきっかけとなればと考えています。



(2) 姉弟間のコミュニケーションとして 訪問小学部5年 Bさん

小学部5年Bさんは訪問学級に在籍し、教員が自宅に伺い学習を行っています。これまでBさんはかたかなの学習において、『ケーキ・ケーキ・ケーキ』のお話で学習を行うなど、学習活動の中で、マルチメディアDAISY図書を活用してきました。

現在も読書活動の一環として紙の本のほかに、マルチメディアDAISY図書を利用して読書をしています。以前に読んだことがある『11ぴきのねこシリーズ』や『はらぺこあおむし』『そらまめくんシリーズ』の本は覚えていて、「この本知ってるよ」と教えてくれます。

ある日自宅で、BさんがマルチメディアDAISY図書で読書を楽しんでいると、Bさんの小学2年生の弟が隣に来て本をのぞき込み、一緒に読み始めました。次第に「次どれがいい？」とお互いに譲り合いながら、それぞれ好きな本を選んで読書を楽しみだしました。二人で相談しながら『おばけ屋のおばけかぶ』や『新・東京のでんしゃずかん』などのお話を選んで読んでいました。Bさんも常時医療的ケアを必要とし、自分で紙の本のページをめくったりすることがむずかしいしい子どもです。しかし、マルチメディアDAISY図書は自動でページが変わっていくので、Bさん一人でも操作の手間がなく、読書

を楽しむことができます。姉弟間でのコミュニケーションを深めながら、読書を楽しむことができました。



(3) 卒業後を見すえて 高等部2年 Cさん

高等部2年Cさんも常時医療的ケアを必要とし、自立活動を主とする教育課程に学ぶ生徒です。昼食は経管栄養注入で1時間近くかけて行っています。長い時間車いすに座ったままなので、その時間を有効に使いたいと考えていました。

最初はタブレット端末のアプリで好きな画像を二者択一し、選んだほうの動画を見て過ごしていましたが、ふだんの学習において絵本への興味・関心が高まり、とても集中して見ているので、マルチメディアDAISY図書による読書を始めました。

おもに読んでいるマルチメディア

DAISY図書は、『どうぶつのあかちゃん』『すてきな三にんぐみ』『ぐりとぐら』『どうぶつのおかあさん』などです。現在は短めの長さの話が中心ですが、徐々に長い話を楽しめるようになってきました。Cさんは高等部2年生ということもあり、ゆくゆくは卒業後の実習先で自分一人で楽しめる余暇活動となることを目標としています。読書が生徒の生活に豊かさや彩りをもたらすものになるよう、マルチメディアDAISY図書を活用しています。



このように、学習における予習・復習手段として、コミュニケーション能力の形成を図る手段として、また個人の卒業後の生活を豊かにする手段として、マルチメディアDAISY図書を活用し、子どもたちの読書の可能性を広げています。

今後もさまざまな活用法を探りながら、読書活動の充実に努めていきます。

